



前教頭

深川 恵 造

「もうじき また夏がやって来る」は、谷川俊太郎の「ネロ」の文句であります。私にとつての夏は、同窓会であります。

もちろん、一宮西高校のそれではありませんが、今年、大学卒業三十周年というオマケつきであります。三十一年前の八月六日、「八月六日」という日は不思議と快晴の暑い日ではありますが、平和記念式典に出たことも古い夏の思い出として甦って来ます。

「西高の夏」は、五十八年、プリンス食堂の二階で再建第一回の同窓会総会を持って以来の五回の総会と、高校野球県予選が記憶として強く残っています。成長盛りの谷川さんのようには、そんなに沢山の未知の体験が待ちかまえているわけでもない私にも、「またやって来る」今年の夏には何かあるか、と、大きな期待を持っておりま。

皆さんの（そして、私の）とも言わせて下さい）一宮西高等学校は創立二十周年を祝って以来、着実に、そして大きくいよいよ、素晴らしい前進を遂げて来ています。自分自身に誇ることの出来るものがあることは素敵であります。自身でなくて、それが属性であっても、心の支え、生きる張りあいになり得ます。母校の発展、これを後輩がなし遂げても、自分のことのように頼もしい限りであります。ましてや、自分も一員として参加出来たということであるならば、もうこれは人生観や教育観ともなつて、これから

の生き方にまで大きくかわつて来ます。複合選抜制度実施を来年春にひかえ、一宮西高校は二度目の大きな変革の浪にさらされます。ただし、変革を強いられるのは何も一宮西高校だけではありません。県下すべての普通科高校、職業高校も同じであります。ただ振幅に大小があるだけです。ピンチはチャンスになり得ます。苦さを業にし、新しい情況をも自分のものにして行けばよいのです。それをやつて行くだけのスタッフもブレインも西高にはおります。同窓会の皆さんは声援を送っていただきたい。宣伝していただきたい。「西高もアカンワア」などと弱音を吐かないで、これまで以上に西高を盛り立てて行つていただきたい。山内会長さん以下の本部役員の皆さんは十分ご理解下さつていただいておりましたが、九千名会員のひとりひとりの活躍が西高職員、在校生にとつて大きな支えであります。

私は四月に阿久比高校へ転動し、今、二階の部屋で、四階の音楽室のピアノの音、武道場の竹刀の音を聞きながらこの文を書いています。低気圧の通過した午前中の雷鳴と激しい雨がウソのような昼下りの唯中です。

それなりに素朴で真面目であります。言う所がスーッと通る一宮西高校のPTA、同窓会の人々が懐しくなりま。今年、創立十周年の年に当たり、記念式典を行ない、記念誌が同窓会名簿を発行します。西高二十周年の時と同様であります。西高の名簿は進捗してしま

ようか。三十周年はじきにやつて参ります。今度は同窓会という声もありまので準備に入らねばなりませんね。

山内会長、傍島、則竹副会長さん方の役員の方々を中心に、一層結束を固め同窓会を発展させていっていただきたいと思ひますが、何よりも会員の皆さんがご健勝で、いよいよ実社会での重みを加えられんことを心より願つております。

八月七日の同窓会総会で皆様にお会い出来まことを楽しみにして、筆を擱きます。

同窓会近況

第三回生 内藤雄三

西高もすいぶん発展し、多くの卒業生の活躍を聞き大変喜んでる次第です。現代はコンピューターの時代であり、私も毎日端末機をたたく忙しい生活を送つています。

これからも各分野で西高生が益々発展することを確信しております。

第十三回生 伊藤信久

一向に盛り上がり状態にいらいらしながら、しかし自らも積極的に活動できないでいる同窓会の幹事です。ただ、少し逆説的になりますが、同窓会は必要以上に大きくなるべきではないと個人的に思つています。世間では、同窓会を一つの社交場にしてしまつて、母校を誇りとし、（それはそれでよいのですが）現在の自分よりも、過去のある時期に自分がその学校にいたといつたかつての自分に胸を張る人がいますが、どんなものでしょう。勿論、私は今の同窓会の方々を揶揄してゐるのではありません。数年後、西校が

進学校という肩書を失つた時でも、現在の同窓会の活動が力強く引き継がれていくことを、心より願う次第です。

第十五回生 鶴居 朝

西高を卒業し、早七余年。私の場合は大学卒業後、六十二年春から一年間、西高の職員として勤めさせていただきました。この四月からは尾西高校に勤めております。ふりかえると、西高で計四年間勉強させていただいたのは、恐らく私だけではないでしょうか。尾西高校にもようやく慣れ、この貴重な体験をもとに現在、生徒と奮闘中であります。

桜井隆幸

大学に入学してあつというまに一年と二カ月が過ぎました。今、僕は、体育会部の活動をやってますが、その遠征で東京や大阪、などなどいろいろな地方に旅行できるのが何と云つても楽しいものうちの一つです。そしてその旅先で相手校の選手と知り合いになるのもなかなかいいものです。

定時制 坂口みどり

一宮西を卒業して、七年目になりました。時の流れは速いもので、今は、結婚をし、妻となり、三児の母となり、幸せな毎日を送っています。

今、子の親となり、子の親としての、嬉しさ、厳しさをしり、私自身が親の子であった頃を思い出し、両親の愛情の深さ、素晴らしいを感じる毎日、私も子の親として、優しく、そして、強くならなければとの思いで、毎日の生活を送っています。

通路整備

昨年度、中館と本館とを結ぶ通路が新しく改装になりました。校門を入つてすぐ真新しい姿が目に入ることと思います。



時計

今年度卒業記念品

